

令和 3 年度果樹産地生産性向上セミナー

省力樹形等労働生産性向上に向けた試験研究

農研機構 九州沖縄農業研究センター
九州沖縄果樹研究調整役・吉岡照高

1. 省力樹形の研究の一例：省力、機械化を目指した栽培体系の開発

1) 双幹形(福岡、本日の講演)

このほか、①省力樹形プロジェクトでは双幹形での列状密植樹列の取り組み（静岡県）、樹間 1.5m、列間 3.3~3.5m、樹幅 1.5m、結果層高さ 0.5~2.0m ②中晩生カンキツでの双幹形への樹形改造（愛媛県）

※ 令和元年度果樹産地生産性向上セミナー（R元年10月16日、佐世保）

2) ハウス垣根仕立て（大分、本日の講演）

3) 主幹形

- ・石地ウンシュウ（広島）：樹高 2.2m、樹幅 1.2m おの円筒形。15kg/樹の収量で 3.5t~5.5t/10a（植栽本数による）.島しょ部の急傾斜地圃場に展開
- ・ヒリュウ台青島温州（静岡、H20）：2年のポット育苗、2m×3m 167本/10a、9年目で 4t/10aの収量、2mの樹高を維持。主幹型の維持、支柱が必要（ヒリュウ台は浅根性）

4) アーチ型：ハウスレモン（広島）

- ・樹高を抑え、初期収量をアップ（3年目までの収量を 1.5倍）、作業時間削減（単位収穫量あたり 20%削減）

5) ジョイント栽培：カンキツでも試験的に取り組まれたが、落葉果樹のように実用化されていない。

2. 根域制限栽培の研究：樹冠拡大を抑え、樹勢と土壤水分のコントロールで省力、高品質、連年安定生産を狙う

1) 埋め込み式根域制限栽培（佐賀）

2) 盛り土式根域制限栽培（栃木／ニホンナシで開発された方式）

3) コンテナ栽培、ボックス栽培